



まほでし・につき ①

～1月・2月 まとめっ～

うた いぬ
謡犬 ユネ

「まほでし・につき」の、ひとびと



☆ルメさん…

へっぽこすつとこな

魔法使い

魔法ハウス作りが夢

☆ダイモさん…

ルメさんの師匠

黒豆似

☆カオンくん…

気弱風味の獣人君

☆ヒュドールさん…

水や氷を想い嘆くめらんこりつく蛇巨人

☆ゲンマさん…

ヒュドールさんの弟子

十メうえに独自ゆるい語り方をする

そんなこんなで、

特訓かいしつ!





きょう ワツの働いているお屋敷の書庫から、変なびんがとんできました。

妙な収集の好きなだんなさま・おくさまなので、新年から変なびん くらいは、出ます。

我を解放せんかと しきりに誘ってきますが、魔法をつかうことは言っていません。
変な品はすきでも魔法はお嫌いらしく、面接で言いませんでした。

ワツが由緒ただしき へっぽこ魔女だということは...

もう うちじゅうにチューブワームが生えるのは ごめんだし

新しいほうきくらい ほしいし！

だからびんよ、ワツにぼろを出させないでおくれっ



魔法がかった瓶のなかのひとは相当たいくつしているようで、語りかける言葉が変わってきました。

『我を解放せんか

↓

おいこら、なぜ開けない 気にならねえのかいっ

↓

いやいや悪かったよ、うん 菓子つけるからさ

↓

魔法もっとうまくなりたくないのか？教えるぞ

↓

菓子とコーチだけじゃだめか？ワカッタほうきだろっ

↓

いやいや、あんたかしこいぜ いきなり開けたら俺かじっちゃったもん
ということで3点セットリスクなしで どんなもんかなあ？』

瓶さん、もう一声っ！

今はあてがわれた屋根裏部屋の古箱のハンカチの上ですが、私の好奇心も参戦しそうです。

中身はなんだろっ



しゃべる謎の瓶さんは、あんただけの理想の魔法使いハウスの出し方を教えるからここから出
しなっ と、言いました。

ほうきもいつ掃く部分が飛んでいったただの長い棒にならぬとも限らない けど...

ワッが自由に魔法でつくっていい りそうのうちって...なんかいいかもっ！

と思ったときの空想が、このコトしゃしん です。飛んでるねえ～

ようし、今日は床の拭きすぎで腕が棒だし、明日の朝いちで瓶開封にかかろう。

でも、古い瓶の開け難さはすごいからなあ～

そこもしらべておかないと。あわわ腕ふるふるしてきたっ



「古い瓶はまず、わーむを蓋にぎちっと巻きつけてひねる」と、おばあちゃんが言っていました。

”それでも開かないときは、すらいむ編みのてぶくろかねえ

それでもだめなら、土の巨人に頼んでみよう

土の巨人がいなかったり、頼めなくて

①ドワーフさんのような達成感を得たかったら缶きりでがりがりとお開けておしまい

②エルフさんのような達成感がおのぞみなら、原点回帰で湯につけるのね

それでもなんでもてごわかったら、この古いことばでお話してごらん...”

となえてみたら、イントネーションがちがったのか、出たのはぬるい塩水でした。

かけ続けるうちに瓶は盛大に割れて、なかから出てきた魔物さんにこっぴどくしかられてしまいました。

「魔物に塩かけるんじゃねえっ」 そうだったのか！

しかし瓶、けっこうなでしべる で割れちゃったけど...
魔法ぎらいのだんなさま・おくさまは どうだったかなっ



～（この日記は古代魔域語でつづる）～

勢いで名の一部を書いてしまったが、仮に俺の名はダイモとする。

ルメのやつは「ダイモンさん！」と呼びたいらしいが、それだと様々な意味で別の人になっちゃうからなあ...

手短かに書くと、

- ・ルメという実は素性をかくしたへっぽこ魔女お手伝いさんが、俺を封じた瓶を割って開封
- ・ぬるい塩水は魔族の肩こりに意外と効く 一応タブーなので叱ったが
- ・案の定と言うか、屋敷から追い出される

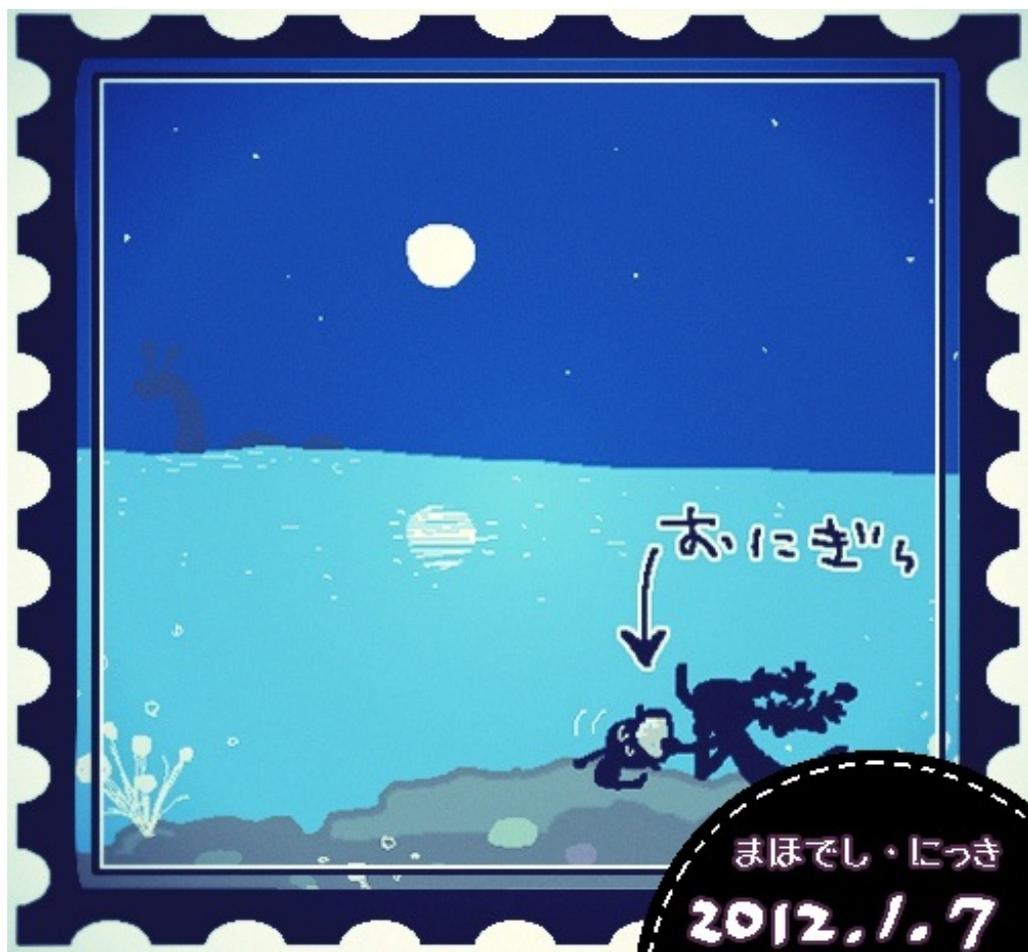
...これじゃあ手長か

とにかくへっぽこ魔法を用いた後特有のもしやもしや髪になりつつも、
はら空かしてグウグウいわしつつも、
ルメは俺や魔法使いをかばってワンワン謝罪をしたが、どうにもてごわい。
ついに 顔からいろんなモノ出しつつ貴族相手にタンカをきった。（責任持って俺が拭いた）

そしてロケットのようなほうき飛行で飛びだしたというわけだが...

ルメ、あんたほうきで出かけるとき いつもこんなだったのかい？

こりゃあ魔法の師匠になった挑戦的な甲斐 しかなさそうな位だぜ.....



古ほうきがとぶままに、見知らぬところにしょうげき着陸しました。

(おなかがすいたのでたべた、ちゃっかり作ってきたもの、その場で出したもの)

- ・ピンクいろのフワフワした飴
- ・緑のによろによろ
- ・跳ね回る生チョコ
- ・しゃべるナッツ
- ・魔法瓶のお茶（コケ抹茶味）
- ・おにぎり（塩きかす）

最後のは 母やおばあちゃんが一切魔法を使わずにつくっていたものです。

オミソ、タカナ、ウメ、コンブ、シャケ...今日はこれ入ってたーって、はしゃいだなあ

(ダイモさんも、最初は首をひねって しまいはがっついてH7H7食べてました)

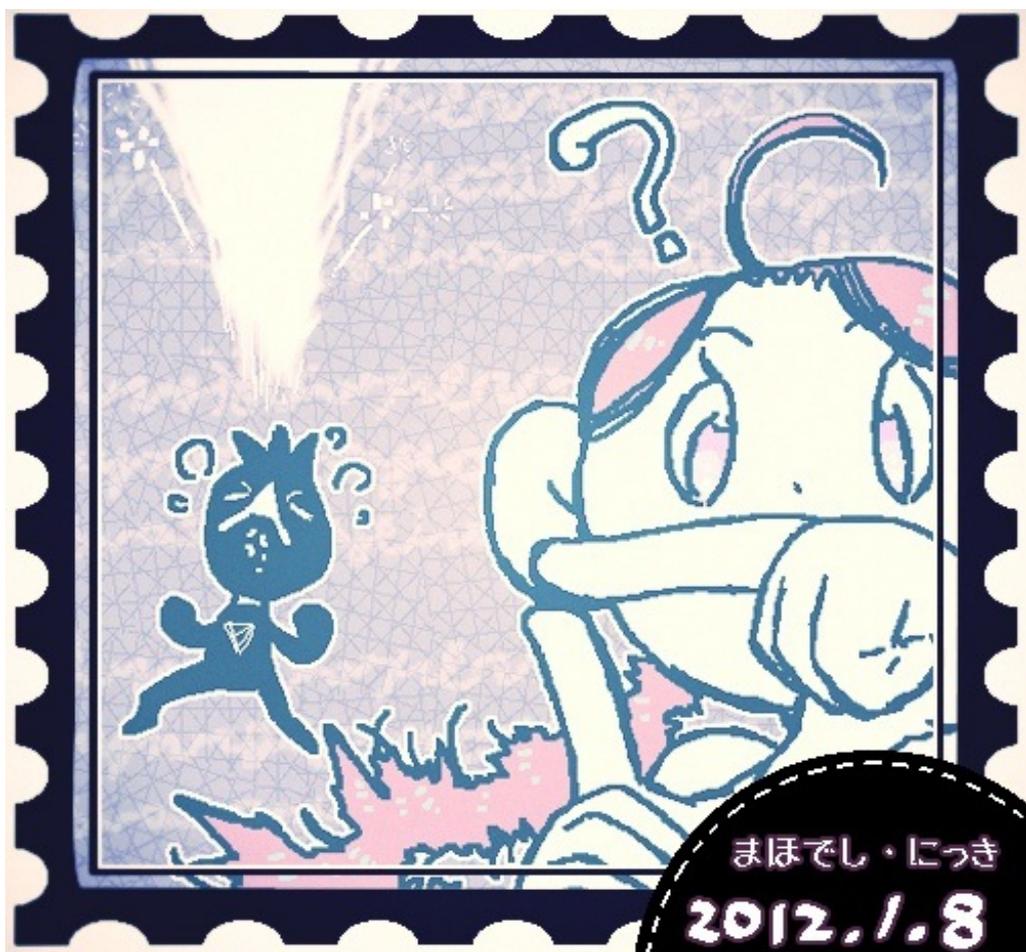
母もおばあちゃんも、うちを出てくるまでに滅多に魔法をつかわなくなりました。
だいじなことを備えれば、使うも使わぬも似ているからね、となっ

魔法と生きるか まったく使わないで生きるか いつか選ぶことになる、そうだけど...

空も飛んでく家つくって、絶景見ながらおにぎり たべるぞなっ

+びぼうろく

- ・どこかで魔法用の鍋を買う (けが、おなかいた対策)
- ・ほうきも定期的に食事がひつよう (魔力の充填)
- ・魔法服に雨・ほつれ避けのひと魔法 要



ダイモさんに、あんたが今使える術はナンダと聞かれました。

- ・塩水を出現させる（最近徐々に出せる温度が上がってきました）
- ・弁当をつめる（たまに具材が位置取りで合戦をはじめる）
- ・ろうそくレベルの光球を出す（数時間・ランプに入れて使う）

生活密着型っ！

（母は魔法で戦った世代ではないし、おばあちゃんはアンタには危なっかしくってまだまだいろいろ教えられないよ、もっと自然のかんかくを覚えてかえってきたらね ということで...）

一つ、課題を出してもらいました。

”料理の火かげんをオートにする術”

つまらなそうなダイモさんですが、これはうれしい！

夜に暖をとるとき、ワタの術じゃへんなものしか出ないし、ダイモさんの術だとゴオーツすぎておっかないしっ

今後は指をダイモさんの象徴文字の形にしてふん〜っとするだけで、あったかいしちょうどいいおいしさになるし、オープンぽいものも出来るかもっ

今は熱いライスシャワーしかでないけどもっ

収穫収穫っして、きょうはおかゆにします。



きのうは、しっぱい魔法のおかげでおいしいおかゆを何杯もおかわりしましたが、今日は起床から違っていました。

①まず、いま自分の着ている服を運動仕様につ

いちばん馴染みの深い、ジャージ冬服にしてみました。割とばっちりっ

②つぎに、不思議なものの声をききつつ、（まだこちらから発さなくてよいらしき）見えるゴールまで軽く走る

すごく短い距離です。これからだんだん、伸びてくのかな？

③ほうきとの信頼関係を深める

ワッがろけっと飛行しすぎたせいか、ほうきは最近°イッと方向転換したりします。

ごめんよ魔法商店主ゼットさん、といったら さらにパキーンと...
んん、階段坂下 玄米さん とかの方が 良かったかなっ

のちに光物が好きというのを発見して、小さな飾りをつけたら なんかもじもじしとりました。

つかない豆電球のひもで、よかったのかな 玄米さんっ

”いいカルメ、あんたのばあちゃんがしたかったであろう特訓を、これより毎日行う
魔法の家作りのために、基礎のちからをきたえるんだっ

すなわち、不思議に飛び込める&宵闇を渡れる位の知力・体力・とんち心を！”

ダイモさん、フルエンジンでねっけつきょうしになりました。おおほのかに温かい！

しかしワッ、運動は見るのは好きなれど自分では大の不得意だし、脳はゆる雑学でいっぱいだし、
大丈夫なのかなあ〜+とんち心っ...？

なにはともあれ、3食のごはんと、未来の魔法はうすのため（あと髪をなんとか）、
レッツとっくん、かいっ！



今日も順調に失敗続きでした。

何もないところでひっかかって転んだり、魔法はさらに不可解なへっぽこだったり、
どことなく調子がゲフンだったり...

いいかげんでもないし、この流れで良いんかい自分っ？だし、魔法ハウスできるかな？だし、
先に腕を買われて魔法使い生活しとる人たち、どうしてるかなっとか

うちのかわええ番カラスのすー太くんは、ごはんいっぱい食べて元気にしとるかしらとか

いろいろ考えていたら、頭から目玉のついたもやがでてきました。

ダイモさん曰く”何だか知らねえが今日はちょっとひと休んどけ”ということで、宵の木の下で夢た
いむっ

この木、さともありました。

昔はでっかすぎて少し怖かった木ですが、今は夜空模様の葉っぱ達に包まれている感まんさいっ

なんだかわかんないけどヘンテコな夢がいっぱい見られるのです。

魔法力を養うにも実は大事だとかっ

そして、ワタは妖精のやうな ちちやおっちゃんがおおぜいで絵の描いてあるだいこんをひっぱる夢をみたのでした。



ルメがけさから魔法風邪になった。

(おもな症状)

- ・悪夢迷宮in
- ・魔法が全く使えない状態・扱えないような術がかってにかかりそうに を、数回くりかえす
- ・身体的な症状は風邪そのものの やや重い版

(おもな対処法)

- ・自分だけのお守りを作り、近くに置いて静養
- ・魔法の師匠に一定期間魔法を封じてもらうか、むしろ荒野など広くめいわくがかからない空間でたまった魔法を出し切ってしまうか

※魔法風邪は新人魔法めいつの症状ゆえ、でるといっても新種の何かかヘンな雲くらい

・魔域の”封印の洞窟”に眠る伝説の竜 ギルベルンドワルムと契約し命の半分を持っていかれるかわりにさっぱりと治す（ファンタジー好きと不死者に人気）

竜のじっちゃんに契約しなくても治るので、とりあえずほどよい氷水を加減オートで置いてやりつつ、いまは毛布うさぎにルメをもふもふ巻いてもらっている。

ただ、軽いはずの魔法風邪がけっこうな具合なのが気になる。
もしかしてルメ、はいぽてんしゃるなのか？

毎日わが頭から熱い米を噴射させてごはんごはん♪しているむすめっこ、ナカナカどうして未知数なようだ。



はじめまして。僕はカオンと申します。

日課の森散策でよく使う獣道を通りかかったところ、黒豆のやうな方に呼び止められ、魔法風邪のよい治し方はないかと噛み付きぎみに尋ねられました。

いやぁ、僕ただの不健康なけものびとですから 魔法風邪とはちょっと～...

と思っていたのですが、旅のむすめさんをむげに放って散歩にいそしむのも気が重いですし、

黒豆さんがムンズと掴んだ肩を離してくれませんし、

むすめさんのおでこから変なものがたくさん出て辺りの動物がやや怖がっているし、

なんとかしてみる事にしました。

いろいろあって出来るだけ変身しないやうに生きて参りましたが、やっとわが種族のちからに感謝するときに、

.....あ、むすめさんが ぶんとんに...

わあ ど どうしよう...めまいがしてきたっ



いきなり文旦にされたときはモウびっくらしましたが、魔法は引き続き使えます。
ペンを浮遊させつつ、今日の日記を書いています。

この変身術もそのうち解けるといので、いまは柑橘類ならではのこをためしています！

(れぽ〜と)

- ・水にはでっかくても浮く
- ・ほうきに乗るためのバランス感覚を磨けるたいむっ
- ・五感+ α
- ー視→いろいろ夕陽風味の色合い

聴→植物の音が聞こえる！ただ樹木さんはお話をするすびーどが雄大

「おはよう、知らない形だが どこで生ったんだい」と35分かけて
訊いてくれました

嗅→いつもふれっしゅ&おつかれや緊張をほぐすという香りがただよう
ワッこれ以上ほぐれたら形なくなってしまうぞっ

味→なんでもかくなれないかくし柑橘あじが！甘酸っぱいなあ

触覚→くっしょんを内包したすごい厚みのゴム手袋をしている、あんばい

魔法→姿が変わっただけでコトは今までのままなので、魔法関連は問題なし

カオン君は重い荷物をしょって歩いてくれるし（たびたびたましい抜ける）
森料理もとってもほかほかでおいしいのなんのって...！

きらっとしたけもの爪で、野菜があっという間にきちんと切れるんです！

みんなでご飯食べるのが恥ずかしいのか、古樹の陰でむしゃむしゃやっとするけど

はやく術がとけて、ワッが荷を背負えるやうに&ふさふさしっぽをもふもふしたいっ
ギョエーッなど発しつつ疾走してしまいそうだけんどっ

カオン君、きにすんなッ！これからよろしくね。



やっとヒトの姿に戻れました！

戻るときは、2度寝の波間のやうな感覚でした。

でも、長いことどっしりとほうきに乗ったままだったので、足元がふらふらして...

旅仲間はワツが酔いどれさんのやうな歩行訓練をしているうちに、荷の風呂敷でテントを作ってくれていました。

おばあちゃん魔法風呂敷すごい役立ってるよ！すごい伸びるし、雨風防げるしっ

テントを作ってくれたお礼に、ワツはオート火加減の魔法でだんをとりました。

また、コレなら作れると思い焼きだんごも作りましたっ

タレはみたらしがよかったのだけど、先日魔法特訓のしっばいででけたカラフル紫の餡子を試してみました。

こっこれは...むらさきいも！

とろあま〜かったです。してみるものですか、しっばい

それから、ダイモさんとカオン君とワッで たっぷり話し込みました。

ばったりサラマンダーに出くわしたときの小ワザとか、獣人の巣のしくみとか、魔法をかけるときに考えてることあるあるとか...

さとても がっつり魔法かぎょうをしとる男子も女子も減っていて、本来のことを知らない人々が魔法使いを悪魔の手先みたいにいったりするけど、

世界にある色んなものを知る、フシギとおはなしする力を磨く、みたことないモノ作りたいて、わくわくだなあ〜

魔法ハウスのコト設計図、何やらどんどんでっかくなっていきます！



ダイモさん曰く、ワツは魔法の糸をつむぎきれていないとのこと

魔法はこつこつ小さい段階をくりあしつ溜めて溜めて行って、そして一気にだーっと放出するらしき

おお〜っソレ記憶あるっ

お屋敷にいたお坊ちゃんお嬢さんご兄妹がだだハマリしてらしたRPGの感覚ね！

...と言ったら、だから集中しろって、とギロリンされました。はわわ魔族の迫力っ

見てみる、カオンのやつは集中してる というので二人で見たら、尻尾の置き方にずっと困っていたみたいでした。

そんなこんなで、今日はイメージトレーニングの日。

【作りたい魔法ハウスの、細部までイメージ】

- ・ 屋根には植物がいっぱい生えていて、風見鶏もある
- ・ 煙突と魔法暖炉（赤れんが！）
- ・ 寝室は浮遊する月つき、魔法部屋と書斎は二間続き、台所は便利&懐かしさ大事
- ・ ほうきスタンドでは魔力充電可希望（すぐ飛べる）
- ・ 地下室には時空移動扉を設置
- ・ 将来おむかえする使い魔さん（巨大生物希望）のためにおおきめ部屋
- ・ 客間（かぞく・ともだち・魔法職でのお客様・ダイモさん・カオン君）
- ・ 家自体に飛行機能
- ・ 劣化しない
- ・ 家の中にも魔法ハーブや鉱石が生え放題
- ・ おそうじしなくってもホコリでない
- ・ お風呂は源泉かけながし&総ヒノキ
- ・ ごはんを上手に作れる
- ・ 大いなる謎付き（じっくり解きつつ人生に深みを）
- ・ 壁は白木、適度にぐらんじていすと、床は草か青いか
- ・ ランプいっぱい、多国籍情緒

ここまで来て、収納とトイレと何階建て？という疑問に到達しました。

う～ん収納はねこバス方式、といれは洋式（座面あったか機能有・紙自動補充）、どうせならかっこいい塔みたいのもいいし、玉座があるやうな古代遺跡風も素敵だし…

あんた自分で出すんだぞ、とおたっしされハッっとしました。

ワッが作るんだ、魔法の・夢の・はじめての自分のうちを…！

手をじっとみつめつつフルしとるワッのよこで、カオン君は尻尾の置き方を決めました。

そして、3分だけ小石に姿を変える魔法を覚え始めていました。質感ナイス！

ようし、ワッもがんばんべっ



きょうは、自然のいろいろに触れる、というのをしました。

石や岩・草に木の幹の表面・川の水とか、藻とかに触れます。

質感をしっかり思い起こせたら次のものへ
思い起こせないな～ だったら、もう一回 というふうに

魔法で出すときに、こういうのは大事だなあ～

かたち、というだけでなく、そこにはなにか放たれている気持ちの質感めいたものもあったり
して、それとじぶんの気持ちとが共鳴すると、なんとなくりらくすしたり するのかも

...なんつってなっ！

だいじょうぶ、ワタあやしくない一介のへっぽこ魔女ですからッ

きょうはカオン君が1日ばかりで変身した巨石の家で一泊ませうというお話でしたが、茸や川海苔を運んでいるうちに足が出てきて、皆でアアするうちに元に戻ってしまいました。おっ惜しいッ

なにはともあれ、今夜も野生のおぼえ響くでっかい森で、小さな反省会（の宴）です。
ねこじたゆえ熱さ対策しつつ、鍋物ファイ&ゆるっ！



ダイモさんには、古い魔域なじみがいろいろいるやうです。

魔域とはながのとなごや位の距離にあるところをずっと進んでいるので、ちらほらそういうなじみの方々とそうぐうします。

今日は、岩石で出来た頭をした、ぎざぎざ歯の方

われらのおやぶんいや師匠どの、何か話してやってくれねえか と頼んでくれました。

おら せなか かゆい なんとか くれる たすかる という、ごろんごろんしたお声

それいけヤロウどもーっ！という掛け声とともに、岩蝦蟇？さんのおせなかお掃除 開始っ

でことぼこの間をほうきでさかさか掃き、はえているきのこを収穫収穫し、

ほうきを払って飲みたいというお水を汲みに行き、歯にひっかかった鱗とカオン君を救出し...

そうだ、しあげに楽しい模様や衣装を着せてさしあげたらどうだろう！

お屋敷のお手伝いさんごころが突如すいっちonし、大技を放ってみました。

そしたら、ダイモさんに荒縄みたいなおさげ髪がつかしました。ハワごめんなさい！
って よくみたら、私のしっぱい魔法髪 そのものじゃないかい

い いやいや、あきらめず、集中っ……！

こんどは、蝦蟇さんに斜めのしましま模様がつかしました。
なんでも、ずっとしましまになってみたかったとか

そして蝦蟇さんは、あんがと まほうは おはなし すれ といっって、地面に潜っていきました
。

(今日おぼえたこと)

- ・魔族さんも、ウレシイときはウレシイ表情をする
- ・集中だいじ
- ・魔法は、ただかけるだけでなく、何かとおはなし？している過程でもあるらしい
- ・大技は急にとまれない

それぞれの意味でズウ～ン...する二人をヨッコラショッとおんぶしたり担いだりしつつ、ほうきに乗って良い野宿すぽっと探します。



森の道がひらけたら、向こうの見えない湖に橋のやうに 大樹がかかっていた。カオン君がいうには、ここは昔は街で、その前は幾千もの未知の鳥たちの楽園だったさうです。

ワツも、さとをでていく先輩魔女のおねえさんが 不思議な鳥を連れているのを見ました。おしゃべりが上手で、眼はいまみる大樹じゅうを覆う苔たちのやうな色

そして、葉っぱの耳と花の尻尾がついていました。

”みえぬものや みえぬものがみえる人のことは みえぬひとには どう考えたらよいか解らないだからきつとこわいのだらうし、きらうのだらうし、いろいろにいうのだね

じっさい まがいものもあって、だまされりゃおこりたくもなるわ
きりがいいもの

でもね、それがすべてではない どれも、すべてじゃないさ

だからあたしは渡りにたつし、にどとかえりはしないよ
でも、だいじょうぶ ぜったいにさとのみんなのこたあ 忘れないから”

ひとりがすきで、魔法で彫刻をしためがねの奥の表情をあらわにしなかったおねえさん
かよっていた場所でどんなことがあったか、知らない

けれど 遠ざかっていく長距離列車の窓のお顔は、はかなげながらがちりと何かのきっかけを
掴んでいました。

きょうも、さとを出た いやあらゆる土地の魔法使いのおにいさんおねえさんが おもいおもい
の暮らしをゆく

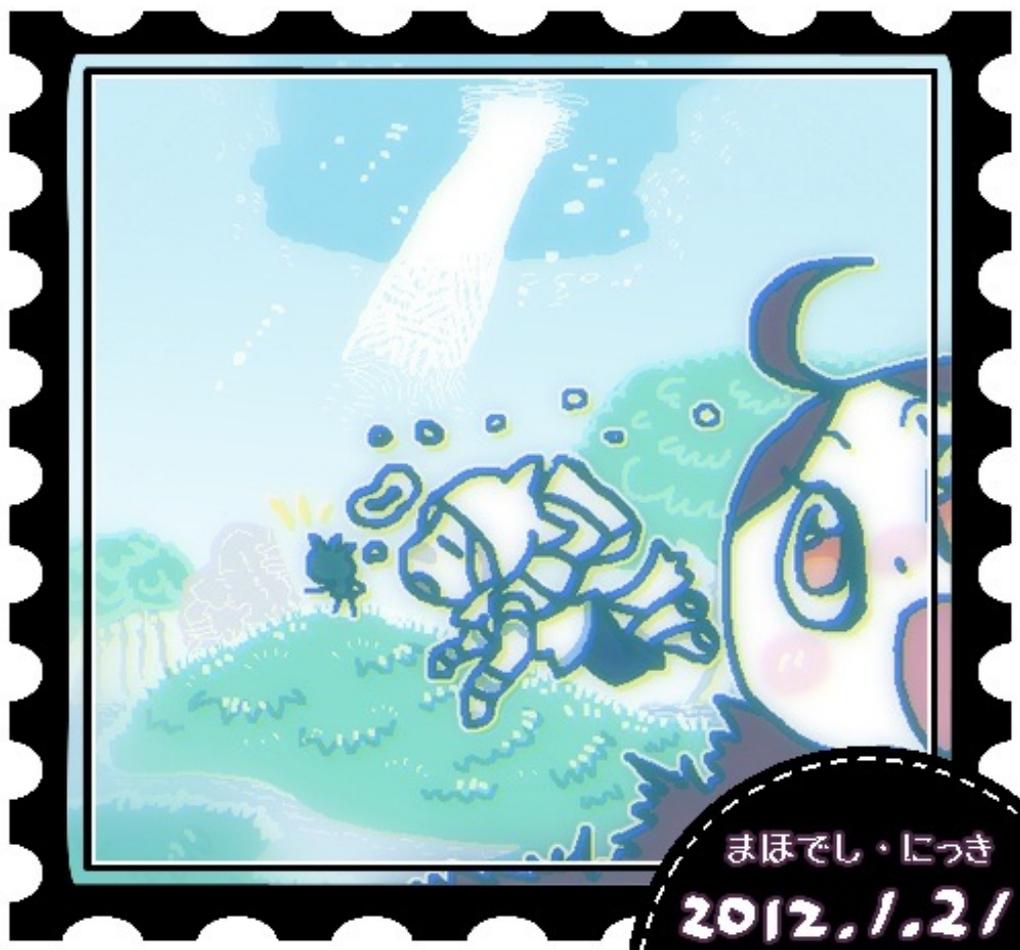
嵐を 海を 森を あつれきを もうふぶきを くべつを 涙を 街を まんてんのこうやを

ようし、ワッもあるけるぞっ

ということで、拾ったどんぐりとくるみをいっぱい使って、朝ごはんはパンに挑戦します！

でもそのまえに、もうすこ～し、みていよう

あさもやのなかの むかしの いまの かなたの 日の出を



まほでし・につき

2012.1.21

なんだか湖を去るのがなごりおしくて、ぐるりを歩いてから行こうと4人（ほうき含）で決めました。

湖の波打ち際はしいんとしていて、なんだかちがう時代にまよいこんでいきさうなもやも漂っています。

そこでまずワッが足をすべらせました。それをカオン君がひっぱりあげんとしたのですが思いのほか重たかったらしく（なんかショック）、皆「おおきなかぶ」形式で湖にだいぶしてしまいました。

そして気づくと、私たちは小さな花や苔、見たことのない木に囲まれた洞窟の中にいました。頭上の丸い水面からは、ゆらゆらきんきんと光がさして、まわりはま〜るく澄んだ水が流れていて...

ここを魔法の練習場兼仮のハウスとしておかり出来たら、なんか素敵かもっ！

起きてすぐヒエエーッこことこっつと飛び上がるカオン君や水だらけ...とゾゾーッするダイモさんをなだめつつ、只今例の魔法ふろしきテント設営開始します。

洞窟っぽいハウス、も良いカ...



私たちが今テントを張っている場所は、こんなかんじです。

石が何かをしめすやうにあって、古い石碑があって、
くらげ型の、ほぼ水分でできたゆらゆら樹木があって、
まわりをとりかこむ洞窟の川？には、未知のエビさん・魚さんがいます。

カオン君は、見たいきものそっくりに変身するべくいろいろ試し、
(色、形、動き ト)

ワツはここにすむなにか？さんとお話するべくいろいろ試しています。
よくつかう魔法言語の単語のはずなのに、うっかり忘れてるもんだなあ～

ダイモさんはといえば、地図のやうな粘土の絵のやうなEJを描きつつ
ひとりごと
おかしいな、なんかここ知ってるぞ とはっ？

何はともあれ、ここを流れる天然水、きりっとしみわたるっ！

(飲用に適する水質とちようさ済)



ワッたちが魔法特訓をしていたら、石碑からもくもく 何か出てきました。

古代の鎧装束？を身にまとして、4つの王冠へびさん型のうでをした不思議な巨人さん...

うはあすんごいなあ！いろいろいんたびうしちゃおう！

何せ本格的な魔域の方をみるのは初めてだしっ

(ダイモさんはどちらかというと ちっちゃかわええしっ)

”詰問はよせ少女よ 私はヒトを好かん そのなすこともだ...”

ダイモさんががらがら声さんのブルースだとしたら、このオカタはみゅーじかるの知的な悲しい悪役さんのようなイメージです。

じっじゃあ、握手だけでもお願いしますっ！

...と、思わずけなげなファンさんのように頼んだら、それはOKをいただきました。

ありゃ、カオン君は尻尾を向けてごめんなさい〜とガッガッしてて、ダイモさんはすさまじい顔でチッて言っているなあ

”ダイモよ、私の眠る間に 時代はかわったらしいな...?”

ふ〜むとといったかんじで首をかしげる蛇巨人さんに対し、

”俺はどこで時代越えてたと思うよヒュドール ほんの小瓶の中だけ全く！

それをアレがコレして今の姿とこのへっぽこ弟子ずだっ”

小さな手足をパタパタさせてブルースボイスを発しているダイモさんです。

お二人がわしゃわしゃしとる間、ワツとカオン君は座布団出してお茶を飲みました。



気づかないうちに、眠り込んでいました。反対方向のの草地の岸の端ぎりぎりで眠るワッにもカオン君にもかかるやうに、あったかキルトが...

柄からいうと、テント用の風呂敷をダイモさんが魔法変化してくれたのかなっ

さて、そのダイモさんはどこかな？と探していると、石の間からによきっと出てきました。最近はいろんなものが出るねえ～

師弟ずとほうきで塩わかめ粥とチーズと薬草茶を食べつつ飲みつつ、ヒュドールさんのことを聞いてみました。

握手をしたときにぴりーっとしびれたのと、まとっていたコワ圧力がすんごく吹っ飛ばされさうになったのと未知の色・形だったのとで、空想が止まらん程コワわくわくだらけだったのです。

(ヒュドールさんのこと)

- ・ダイモさんと幼生時代からのくされえん など？ (ことあるごとに様々な形式で魔法ばとる)
- ・王冠ヘビさんの頭をした腕はそれぞれ喋り、よき四天王きゃらずらしき
- ・ヒュドールさんは かなしげ哲学者さんたいぶの魔域びとらしい
(色々熟考するうちにメランコリックが熟成されて一帯を凍てつかせる)

※俺はガス抜きにつきあって、定期的にコロ休眠&手加減なしの氷の巨人と戦わねばならんてことだ、と タテジワよせつつお粥一気飲みのダイモさん。

ひとは好かんと溜息のやうにいていたヒュドールさんと、しょうがねえなといつつドライにりんくしてきたダイモさんと

なんだかいいいバランスでいらしたのかな〜と なんとなくながらっ

よーし、今日も魔法特訓だ！



今日も今日とて、魔法特訓。

出現させた物体を汲んだ水の中に入れても、質が変わらないようにする というのに挑戦中です。

思えば空飛ぶ魔法ハウスの屋根は雨にも雪にも氷にも霜にも、ときとして雷にだってさらされます。

タフな屋根にするべく、習得するぞっ

でも、ふみやふみやしたり、水から出てきちゃったり、電気帯びちゃったり...
まるまる出すのでなく、何か素材があるといいのかな？

小さなハウスじおらま とか、
角材など一式 とか...

そういへば料理するとき魔法で出す塩水、もう塩湯ってくらいの温度を出せるけれども
あの塩どこから来るのかなあ

とか考えているうちに、ダイモさんはフッフフとリズムカルにふくみ笑っています。

訊くとヒュドールさんにも、まほでし物がいるらしき しかも、でし歴はワツよりずっと長いとか！

(まあワツはこの間偶然でしになれたのだけどっ)

良い訓練だ、手合わせ願おう+α ということのフッフだったやうです。

すごいねルメさん、僕応援しますから〜っというカオン君
くらげ樹木のかげから、頭と尻尾だけ青くなりつつカカ出ています。

うはぁどんな人かな〜おねえさんかなおにいさんかな〜上手いんだろうな魔法...

わくわくのんすとおっぱいでいたら、魔法で競技するんだぞっとギロリンされました。はわわっ魔域の迫力！(2回め)

いやぁ〜でもワツ競うのとか詰めとかシリアスなばめんとか、苦手だからカ大丈夫かなあ

なにはともあれ、ごはんごはん！

(お〜いカオン君そろそろ戻っおいで〜っ)



ワツは、ダイモさんのまほでしです。

カオン君は、勇気と自信の卦を同行して探すうちに、いつの間にかでし2号にされていました。

ヒュドールさんのまほでしさんは、何かの研究のためにかれに師事して、私たちよりちっと前にまほでしも始めたさうです。

だからダイモさん、手合わせ願うぜフフフなんて言っちゃったのかなあ

さて、ふんばるためにはごはんもだいじ。

「なんでも女の子がおうちの事をする事はないけど、ごはんは食いしん坊が作った方がおいしいかもね」

母はそうって、私に創作料理をいっぱい作らせてくれました。わかってらっさる！

母の時代は、どんどんつよい女性が魔法を楽しく使ったお仕事をはじめた時代だそうです。

カラフルな洋服でどうだ！と闊歩して、お料理も家事も進化して、お仕事だっていろんな種類のところからどうですかーっときて、いろんな雑誌がでて、魔法歌手さんも出て...

まだまだいやなことだって言われて帰っただろうけど、
(そして母は変わらず落ち着いた服装だったけど)

「あんたはまだ魔法も頼りないけど、いろんな女性になった自分を思っごらん
うおお〜って思ったら、その楽しい方へずんずん行くことだって、できるうちはできる

つくってぶりぶりしたり、けんけんしたり、だぜだぜしなくたって しぜんがラク！

ああじゃなきゃ”みんなの目指すところ”と違うのかな、こうじゃなきゃ”みんなのいう素敵”じゃないのかな 一体”だれ”のため？ と 悩むのは宝よ

でも、それらやなんとなくの目線空気がココにかじりつきだしたら、美味しいものガツと食べて引っ込ませちゃいなさいっ」

きょうは、げんきがいっぱい入った ごろごろ野菜ず ちょい茹です。
切れ端から野菜を復活できました！

おや、カオン君 大好きなだいこんをかじりながら 眠っちゃったなあ
いろいろあって 疲れちゃったかなっ

アンタ本当に緊張感ないな、とダイモさんにいわれつつ、まだまだ食べるだーっ！



きょうは、魔法発表会の日です。

ワタ達はダイモさん率いるフレアチーム、ヒュドールさんとそのお弟子さんはアクアチーム。
魔法は技術点・芸術点で競います。（飾りはワタ達で作りました！）

一人3種の魔法までで、組み合わせや用いる前の所作からも評価されます。

それでは、いっつあまじかる・たいむ！

（一番手：カオン君）

1 新技・おおきな大根に変身 で挑むも、足元の苔に盛大にすってんころりん 残念ながら△

2 勇気を振り絞ってヒュドールさんの柑橘類変化魔法 しかしじぶんの頭部がとろあま蜜柑に変
化しヒエーッとおおあわて

3 小石に変身 しばらくの間の後 ハッとした一同で探すも見分けがつかず わりと高得点

⇒【総】技術点 まあまあ／芸術点 もっとふんばりませう／合計点 もっと落ち着いてファイッ

(2 番手：わたし(ルメ))

1 熱湯塩水をダイモ氏から間欠泉のごとくに噴出 ダイモさん「俺のことはいいから演舞を続ける！」(しおしお) 師匠、ありがとうございます そしてごめんなさい！

2 ほうき飛行 ロケットではなくなったが、イルカショーのやうになった
水族好きのヒュドール氏に特にうける (輪っかを投げてもらい全きゅっちの快挙)

3 大好きなおにぎりと魔法ハウスをコラボさせ、おにぎり型の移動住居を出現させた

しかし緑の豊かさにこだわりすぎてカビに見える&アクリクイがやっと入れる程にしかならず、手で広げているうちに星型の破片になりパッカーンと破裂

【総】技術点 まだまだ／芸術点 まあまあ／合計点 もっと集中してgoっ

う～ん………

や、やりきった、それだけはいえる！

ということで、只今からだにやさしい鍋でごはんタイムにはいります。

たっ食べるぞ～今日は特にっ(お～いカオン君 ごはんだよ～っ)



魔法発表会、ヒュドールさんのお弟子さんがまいペース遅刻をしてらっさるらしく、
アクアチームの開始ができません。

しびれをきらしたうちの情熱師匠 “黒豆”ことダイモさんがめらんこりっく水巨人・ヒュドールさんにもちかけ、ぷち魔法ばとる大会ー師匠の部ーが開かれています。

戦うことを本来は好まないヒュドールさん、洞窟のこのあたり一帯に保護の水幕を張っています

。

それにしても謎のお弟子さん、大胆だなあ～

その方、洞窟内のメとハナのさきにお住まいらしいのだけんどもっ

魔法ばとるはモチロン全力ではないにしろ、轟音・熱風・大嵐の応酬すんごいです。

なんだか なぜだか、太古の惑星が思い浮かびました。

星の大半が大海で、月がとっても大きくなって、火山があっちこっちで噴火して、大地がどどんと
せりあがったり、沈んでいたり...

まるで、まるでで〜っかい、いきものみたいだなあ〜

細胞だって まるかったりするし

がっつり関連性はないにしても、そうぱっと気づけて、なんだか得した気分です。

よーし、鍋とソースと具材出して、この清水のあらしとねっけつふれいむの中 カレー煮ちやる！

ちなみにカオン君は只今しっぽ巻きしつつ、正座で師匠ばとるを見学しています。

1月30日



昨日作ったカレーは、火入れしつつまだ少しねかします。

お疲れになったのか、師匠さんがたは のみくらべ といった別の種類の戦いへともつれこんでおります。

魔域伝説銘酒・放歌高吟一豪一 は、はたちになってから&のんでもものまれないやうにね！
ワタは飲めさうで飲めないの、"ぎぶみーお茶orジュース"タスキの一員です。

われらが師匠ダイモさんの余熱でおもち串とか あたりめさんなどカオン君といっしょに焼いていたら、新たにだれかがやってきました。

歌うやうに流暢に植物からいろんなものがでける、植物偉大なりというお話をされているのですが...

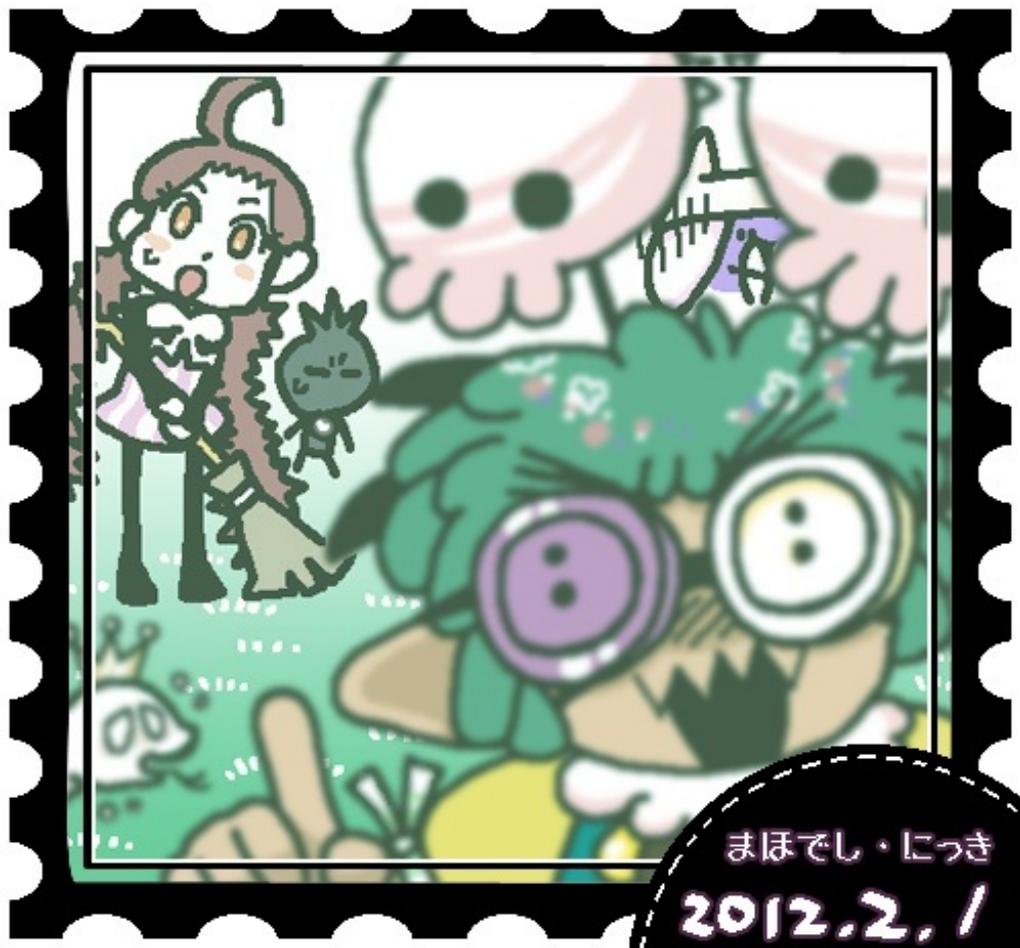
ごめんなさい、もうちょっと木陰からでてきてくれると お姿ちゃんと見えるかと思います！

あれ、お弟子さんて、この不思議な花びとさん なのかなっ？

おーとっとカレーはまだ食べちゃダメーッ！







木に向かって植物の素晴らしさや万能っぷりを説いていたヒュドールさんのお弟子さん

カレーの香りに誘われてかなり前方までやってきました。

そして、その歴史や地方での味の変化・スパイスのもつ効能をとうとうと...

皆今日こそ我が腹にそのしっかり味をっ状態&お話を止めてしまうのも失礼なので、
ほお〜っそうなのね〜っつつ、わは〜っと食べました。

ああ...初めて作るのに成功したァ〜

あったかはふはふで、ちょい辛くって、濃厚な数々のソースやスパイスの宇宙に包まれてっ
カレー、魔法使いにとっても元気がでる味です!

あれ、でも　　なんか緑色になってきたなあ

”おや すげいじゃねーですかお嬢さん

森に帰っていくカレーなど初めて見たぜですがなっ！

是非に研究させやがれです そしてそのまえにワガハイにカレーを食わせてっ！”

言語が不思議なおカタが、またひとりっ

(どこかで聞いたやうな掛け声が...)

我らが師匠・ダイモさんは旧友・ヒュドールさんの足にぽんっ...と手をかけています。

にひる かつ力なく微笑む、ヒュドールさん。

ひっしにヘソから草が生えるか生えないか確認しているカオン君。

魔法発表会、続きはどうするのかな？



みんなしっかりカレーをたいらげ、おなか7分目くらいで魔法発表会 再開です。

”ワガハイ、ゲンマと申すがちゃんと名前を記してくれちゃいましたかっ？”

あれっごめんね忘れてたよ！でもきっかり記しましたっ

さあ、ゲンマ君（もしかしたら年は上かも？）は、どんなまほでしかな？

（3番手・ゲンマ君）

1 では毎度くだらない話をお一つ、と簡単な小物つきでテンポのよいお話を披露
おお〜っこれがかの話芸！となる一同、以後数時間じっくりその世界を堪能

→ゲ「...とまあ、色々喋りましたがこれ 魔法たああんまり関係ないんですけどねっアハッ」

ずっこけ〜っはまごころとおやくそく！

2 植物に覆われた頭に咲いたふたつのお花（右がアリーさん、左がウームさん）の協力魔法
アリーさんが飲み込んだ物質がウームさんの口？から植物となって出てくる

（試したもの→カオン君の収集している釦の一つ、ワタシの持っていた何かを結ぶ紐）

釦は水色のきのこに／ひもはニョロニョロ這う蔓草に

カオン君わりと大喜び しかし後にはからだからも同種類のきのこが生える
皆で取り払い、食用でできるかどうか判定のこと

3 手から沢山の種類の植物を自在に生やしたり引っ込めたりできる（種類は皆薬草）

こちらのチームにすれば草花に囲まれた家やほびっとしょう的な家など、自然どまんなかの家の
作り方を教えてあげるがどうか と おさそい

頭痛やおなかが冷えたとき、おつかれのときや歯が痛いときのフルスッキリ薬草がみずみずしく
く たわわに...

あぶないところでハッと我にかえる あなどれんぞゲンマ氏...
奇妙な眼鏡？あいぱっち？の隙間からふれぐらんすびーむでも放っているんじゃないかなっ

【総】技術点 そこそこ／芸術点 まあまあ／合計点 もっとまじめにがんばりませう

評価をおたっしされたゲンマさん、まじめなワガハイはこんなもんじゃないですぞ～ヌッフッフ
と怪しげで楽しげです。

ふしぎなお弟子さんに会えて、魔法向上道のしげきになりました。
こういう広げ方も、あるんだねえ～

よ～し、あしたもファイブ&ゆるっ！



唐草模様の魔法ふろしきの荷物には、2冊のノートが常に入っています。

- ・学んだ魔法の使い方とそのコツを数色でかきわけた「魔法ノート」
- ・この日記をしるしている、青空がプリントされた「旅日記ノート」

最初から入門としておこさまから始められる魔法をいくつか収めた絵本があって、もうぼろぼろを通り過ぎて修繕しきれん風格が出るまで何度も読みました。

でも、おつとめしていたお屋敷とのごったんばっきんで、だれかにとられちゃった

魔道具屋さんで店主おすすめビンテージブック！とあったときにはあららとむしろ笑いました。

”ワッ、そのなかの魔法ぜんぶ覚えてるぞい まつわる思い出だってあるんだから 上手く使えるのは3つ位だけだね”

それに、書いて覚えるも聞いたり練習で覚えたりも、やりやすい方法すれっとダイモさん言っていたし、ソレ確かに！だしっ

ワツの道で、癒しで、元気もでちゃって、ほんとうにファイト&ゆるでけるもの
じつはドあがり症で、唯一それでなら勇気出していこっと思えるもの

それは魔法なんじゃい！

こそこそとるとるるっきんぐだうんにへら～、じゃ ないのよーっ

そんな情熱と ぽる～んと へっぽこと柑橘類が、2冊のノートに日々ちくせきされています。

つくもがみにもしなったら、最強たっぐのツカイ魔さんだわっ

そのころには私にも風格出ているやうに、レッツ鍛錬！



ゲンマさんも魔法学習ノートをつけているということで、ちょっと見せてもらいました。

いやぁ～びっくりするほどこまかな字がずらりとっ&まさに魔道書ちっくな装丁まで！

「植物人について」の巻と「習った魔法について」の巻があり、挿絵や切り貼りした資料ももしぶい色合い。

こりゃあもはや、図鑑だなあ～

でも、魔法語読み取りれべる が足りないところは、まるで読めませんでした。

この量だし、ヒュドールさんに師事する前から植物人ちなみの方は書きこんでいたらしき。
なにか、なにとぞっという思いがあるんだねっ

ちなみに、今日はダイモさん曰く 湖底洞窟にいる動物達の巣はどんな形かみてみよう という

日です。生き物のハウス、状況にあわせてうまくできてらっさるからなあ

空飛ぶ魔法ハウスが似合うやうに、ワッもあるいていきますだ！



ただ今カオン君は、変身するときのスイッチにする動きを練習中です。

”これやったら、ばっちり変身するぞっ”という何かがあった方が、瞬間的に集中しやすいのだとか

ほえあ～、宙返り上手なんだねい さっすが獣人の子だっ

そして なんだかやっぱりうらやましいなあ、ふすふす尻尾...

花びとのゲンマさんは、まほでし免許皆伝したら 世界旅に出るさうです。

世界の植物人さんに会って、よ～くみききして、気候や土地のもつ色・形を体感して
それで一族のヒトビトがすでに植わって待っているお庭に落ち着くとか

先もいろいろ決めたんだねえ～

旅の話し、おやごさんも心配&楽しみかもしれない！

カオン君達獣人は基本ふりーだむらしく、連絡役以外は世界中に散っているさうです。
でもかれ自身先をどうしたものかきめかねているので、まほでししつつ考えるとのこと

自然保護区のれんじゃーさんなど似合いさう だけんど、肝っ玉の伸びしろがかんじんだ！

ハテ、ワツはなんだろう？

素敵で自分で作れる魔法ハウスに住んで家ごと飛行していくつもりだけど、どこまで？
魔法使いのおしごとって、どんなのがあるかな？

ワツもまほでししながら、その先のことも考えようと思いますだ！

おや、そういったらダイモさん ちょっと花嫁さんを見るお父ちゃんみたいな お顔に...？



カオン君、しばしダウン中です。

朝みたら少し大根かじってあったので、ねこみつつ格闘しとるんだねっ

思えば暮らす環境もすることも、いろいろ変わったろうからなあ

はずかしながら、ワタもおうち出てすっとぼけめいどさんをしてた始めの頃、よくめそってた！
小さな立映写真を取り出して見つめつつ、お話したり ねえ～

獣人さんは写真とかは？ときいたら、寂しい時は自らのコトか風に訊け！がモットーらしく？
でも20人以上だから、絶対はみ出るよね 僕とか... と、おはなししてたっけ

ダイモさんにカオン君大丈夫かなあとききました。

”まあ、あいつもひとりで半自給自足でやってたんだ 腹減ったら起きて来るさ”とっ

ゲンマさんにも、きいてみました。

”具合がヘンなときはねルメさん、それをからだの中でバトるか会議かして治そうとしている時なんだぜですからに～

いつもいっしょだからこそ、ときにそれぞれじぶんに訊く時間も要りようによろ”とっ

いちおう、カオン君にあわせた疲労回復の薬草を出してくれました。

ヒュドールさんは、なにか水について思い悩んで凍ってらっしゃったので、ぽっけにはいていた桃味の飴玉を置いてきました。

かなりぱりっぱりだったけど、賞味期限だいじょうぶかなっ

そっかあ、あったかい湯で野菜とか、焼きねぎとか、わかめおかゆとか出してあげたいけど、そうじゃない”具合がなんとな～く悪い”も、あるだねえ～

そして、いろんな大丈夫の意味合いも あるだねえ～

ということで、きょうは久しぶりに薬草を混ぜて混ぜて緑の香りのすーっとする いんせんす 作ります！



ダイモだ。

ルメが慌てていて何度も貴重なえんぴつの芯を折るので、今日は俺が書くことにした。

・カオンはどうやらココにもう1匹かそれ以上、”中のダレか”を住まわせているらしい。その者との会話を進めているのだろう、ときどきイカのように色が変わる。

あばあばしているルメは、気づいていないらしい。まだまだだなあ

普段はほぼヒトのようにいて緊急時に変身する（中のヒト2号・3号とばとんたっちする）ことで、森の外とやっと交流していたのかもしれない。

かれらにも色々あるのだろう。

・ルメは焦るわりに、むしろ魔法の精度を増している。

ちょろっとほめたら、

「こんなのワッじゃないんだす師匠！普通のワッなら こんな美味しそうなケイク出せちゃいけないのだす師匠！」

と言いつつ怒涛の勢いで食しだした。もうわけがわからないが、そういうことなんだろう。案の定食事途中で塩の山に変わってゆき、ぶへーっしつつも なぜかルメは安心したようだった。

あんた一体どこへいくんだっ

そんなこんなで、魔法とっくんは まだまだ続きそうなあんばいだ。

(追伸：カオンが大根おろし山のせの豆腐が食べたらしいぞ。俺が大根をすっておくとしよう、おいしい湯豆腐係は頼む)



や〜とこさ、カオン君回復しました！
大根またいっぱい買うか出すかしないとねっ（湯豆腐も！）

ということで、魔法とっくん本格再開っ

きょうは石を師匠の出したお題通りに魔法で並べる、というのをしています。

魔法で家を作るときによくやってしまう大変ごとといへば、ハウスが迷宮化してしまうというもの。

はっきりとイメージと どうせん と各おへやをドアでつなげて、出ると入るで同じにしないと最悪出られない！ということにっ...

ああ、思いあたるフシがあるなあ〜

すごくいっぱいあるなあ～

なんとか、数々のハラハラまじかる迷宮から出てきました。

でも、ダンジョンみたいなハウスも、ちょっと楽しいかもしれないっ

カオン君は復活してからというもの、変身の腕がまあ冴え渡っているし、ワツもふんばらねばっ

最近ワツが特にぼえ～としておるときに、いろいろに姿を変えて驚かせようとしてきます。

ただ変わったお姿が、猛獣さんでもすごくあのちょっといいですか？て感じだからわかっちゃうよっ

(石並べは、3つまでわりと出来ました！5つ以上とか、2階3階分とかは...きつついねえ～)

ヒュドールさんたちは、今頃しっかりじっくり座学のじかんかなっ

水の状態による魔法上での取り扱い方と植物の関係、らしきです。おお～

(桃味の飴のお返しに、ミズナギバチの蜂蜜の小瓶をいただきました。喉に効きさう！)

いろんな師匠さんと、いろんなお弟子さんが、今日も今日とて 道を進んでらっさるのかなっ

そんなこんなで、ファイ&ゆるっ！



きょうは魔法で窓を作りました。

わくはなくて、ただ木の枠の中に硝子をはまっている 窓ふうのものだけんどもっ

割とよくできた&どれ位の時間もつかなっのために、例の魔法ふろしきテントに吊り下げてあります。おわぁ揺れると虹色の光が唐草模様映ってきらきらだなぁ

...硝子だいぶ、よく見たらでっこぼこだなぁ

それはさておき、きょうはまほでし混合組で湖の底の洞窟の奥へいきました。

そしたら、開けたところに家のやうなものがあつたのです。

上からはゆらゆら光が照らすし、渦を巻いて伸びる水草もなんともゆめみごち

ここはほんとうに不思議な湖だなぁ

カオンくんは”昔、街があったらしいよ”と書いていたけど、それが変化した名残なのかもしれません。

ゲンマさんははじめ、ここに住もうと思っていたらしいです。蛇巨人の魔法師匠さんが壺中天亭のでっかい一室をおせわして下さったのでここはそのままにしておいたのですが...

”ここをキミたちまほでしの宿舎にしたらどうによろですかねっ”と、みせてくれました。

たしかに今の場所は壺中天亭（石碑の内部）のど真ん前&まほでし特訓でどふんぱかんするし、こんなにふぁんたじっくハウスがあるなら、そこを拠点にしてもいいかもっ

+おや、空飛ぶ魔法ハウス、素敵なもうある形を飛翔させて、お部屋は改造しても良いねっ！

いろんなはっけんをしつつ、われらが師匠・ダイモさんに相談するべく今日は帰ります。

ワッがつくった窓、まだ形保っているかな〜っ



今日は、魔法でドアを作っています。大事な部分だなあ

そととハウスをへだて、つなぎ、おへや間をへだて、つなぎ、四角い空間ずつや世界とのあいだを守ってくれる素敵な板！

どんな色や形、模様や形式にしようかなっ

せっかくの魔法ハウスだし、某おかつぱの魔法使いおにいさん家のやうに時空移動ドア等もつけたいなア～

空を飛ぶハウスなのだし、耐久性も肝心っ

など、いろいろポワンポワンしつつ、えいやっと黄色いドアが出来ました。
コレはドアです、ドアであるとみたならッ

けど水色がよかったかな？と思いつつ、がちゃ...とあけてみたら

金の雲がたなびく、オレンジ色めいっぱいの夕空だけが広がっていました。
どこをみても、大地はありません。

すうすうと吹く風に乗って、きらびやかなゴンドラが仮面の仮装の人々をのせて空を進み
その先にはシャンデリアの形をしたきらびやかな宮殿が優雅な雲に乗って浮いています。

聞こえてくるのは、どこか異国の楽団がかなでるオーバチュアー

みぶんもしがらみもない不思議の夜の幕開けを、はやめに輝きだした星々がつげていて...

おおおお～と思わず足を踏み出したのを、わんこさん・草花さん・黒豆さんが慌てて止めてくれました。あっあぶなかった！

まだどっこどっこいっておるしんのぞうをなだめつつ、今日は作ってあったフォーチュンクッキーせんべいを各自食べてみます。



ごはんをたべている時に、まほうびとのココの中の話になりました。

ワタのばあいは、名前付きで大きな鍋がどんと 土でできたやうなドーム型のほのぐらいお部屋の中にあるのが浮かびます。

魔法をかけるときは、魔法語でその大きな甕のやうな鍋にお話しするのです。

ワタのいまの力だと〇〇デキルマスカー〇〇オネガトシマーヌ みたいになっている、らしいのですが...

(ダイモさん談)

カオン君の場合は、むげんに続くやうな音もなく揺れる野原に、もう一人の子とならんで立っているさうです。

ただ立っているのではなく、常にその前に巨大な動物がいるといいます。

らっぱのやうで、魚や鳥のやうで、大きな前世紀の牙もあり、瞬きもせず見下ろすもの

獣人のひとびとがローホと呼ぶ、その人その人のまもりがみの様な存在らしきです。

変身のときはそのオカタにココで吠えて力を貸してもらう必要が有るらしいのですが、それがもうとてつもなく怖いのだとか

例えると、前に構えるトラさん、後ろに構えるオオカミさんの群れという状態で溶岩の川にかかる丸木橋を渡る みたいなの

そうか、ローホさんへの怖さを越えるのは通過儀礼？

&カオン君はその一步がなかなか出なくて自由に変身できないという状態なのかな？

+もう一人の子の意識にばとんたっちすることもこわくなってしまっていて、先日だうんしたときはその子と話し合っていたさうです。

たしかに変身している間、覚えていないうちにどんがらがっしゃんしていて、ぱっと起きて一変していたら、こわいかもしれないなあ

でも、だうんした時にみたローホさん なんだか少し怖さが減っていた？やうなので、限界突破するのはじわじわかもしれないっ

ちなみにふおーちゅんくつきーせんべいの結果は...

- ・ (ワタシ) へたを かくすな
- ・ (カオン君) ねても さめても
- ・ (ダイモさん) はなれん なか

でした。



きょうもまた、魔法特訓です。

ワツはどうやら出来たーっというときに一気にふい〜っと魔法集中を脱力しているらしく、
加えてソレで出てしまったミステイクをなんとかせねばワツワ！→失敗魔法という流れで...

なので、今日は魔法出来たっしても踏ん張っております。

おああ、はじめて（入れないけど）塔が積み上がったっ
それで保て！の、ダイモさんのコールっ

ようしまずは30秒くらいかなっ 30 29 28 27...

ん？カオン君どうしてそんなに全身もっさもさに...

あ、そうなんだねえ、セイウチになろうとしてみたのね
あれっでもセイウチって

あらっ

結果6秒だこらぁー！ちょっと進歩したから集中を学べーっ！！という怒号&エールをもらいつつ、ばらばらのレゴのやうになった塔を再構築再特訓ですぞっ

あれ、なんかゲンマさんの「...いいナァ～」みたいな一言が聞こえたやうな...？

(ばんがいへん・ちょこれいつ反応)

- ・カオン君「うああああそんなわけないじゃない！僕ですよ...？ふらっ」(気絶)
- ・ダイモさん「うあっ何だそのどろっとしたのが固まったみたいなやつ！」(物陰からヒョイ)
- ・ヒュドールさん「やぁ。気など使わずともよいのだよ、あっ」
- ・ゲンマさん「あっ先生いないでやんすか？ワガハイもらっちゃおーっいやぁわかってマシタよワガハイの求心力んふふふっぱくぱくがつがつ.....うっ！」(気絶)

あはは・・・いいよっワガ残りの山のほう全部食っちゃるけんねーっ！



昨日ワッが作りすぎお菓子を配ったヒトビトがフシギ反応していたのは、my隠し味が激烈&その日
がらばーず・でい だったからなのですなあ～

魔法使いの里に、どうりでよくこの時期に魔法お菓子を頼みに来る人が多かったわけだっ

そしてその残りが、めったにチョコさんなど食べられなかった里の まほたま・みにっこたちの胃
にがつがつ吸収されていくのです。

ろうそくの灯りゆらめく、まるでかかお収穫祭っ

そういへば、ゲンマさんは魔法のお勉強のときに、居間を使っているさうです。

お世話していただいた蛇巨人さん仕様の巨大なお部屋だと趣味道具・資料だらけでそっちに気
がいてしまうし、悩んだときに適切なヒントをくださるお師匠さんの近くにいる方が学びが進
むし、とのこと

魔法の”かた”をやって見てもらったり、魔法語の意味や発音を学んだり、ゲンマさんにあった系統の魔力をのぼしたり しているんだねえ～

あいまには温まる、味わい深いお茶とはちみつにつけて食べるクッキーが出たりして…

ワタチ、おやつ煮干さんとか謎のスープとかお煎餅と白湯とかだわっ
里にもお屋敷にも自室なんてなかったカ

(カオン君は土のあなに住んでいたのだから拡張自在、ダイモさんは魔域のどらごんぼるけーの町ぼ
いずん沼前のマグマだまり出身(遊泳))

いやはや、いろんなハウスがあるのって、おもしろいなあ～ッ

魔法部屋、1面は壁本棚、もう1面は飛行中のおそらがだだ～っと見えるやうにしようっ！
窓を作る魔法、もっと極めんとねッ

いよーっし大根煮るよーっ



ほうきは家にいつもあるものなので、飛ぶにはお手軽です。
でも、いかんせん長距離飛行をすると必ずでんぶあたたたっ...とっ

なので、"ふわっとくっしょん"をあてて巻きました。
ついでに、ばぐ的な飾りや、師匠ダイモさんが削って作ってくれたお守りも取り付けました。

新品ほうきも色やデザインがカワイイものがでているんだけども、お下がりのほうきもとっても
手に馴染んで快適です！んねっ玄米さんっ（←ほうきの名前）

おおっいさましくいなないていらっしゃるわっ

カオン君は、骨？きば？で出来た指輪をもっています。
"覚悟が出来たときに必ず指に通せ それはおまえの誇りと勇気の象徴となるだろう"
とこわかれ儀式前の獣人おやごさんにもらったらしいのですが...

”今のままじゃなんだか情けないし、確実によして思えたらするんだ”とのこと

ダイモさんは、首にでっかい球体結晶の飾りをつけています。

それ、なんですか？ときいてみたら、いや俺もよくわからん らしきっ
ダイモさんの感情にあわせて光り方がかわったり、たま～にビームが出たりします。

あれはもしかしたら飾りじゃないのかもしれないなあ

それぞれ、ふしぎな だいじな おまもり もっていました。

そしてそれぞれも、それぞれの おまもりなのかも？



空をとぶハウスの、「とぶ」って、どうするの？
...というのが、きょうの課題です。

地中海周辺は雲さん少なめなので、翼で飛ぶオカタガタのおはなしが充実、
東洋周辺は雲がたくさんなので、雲に乗ってとぶオカタガタのおはなしが充実

と、なにかで聞きかじった気がします。

雲、つばさ。ほかに虫さんの羽や、こうもりさん・翼竜さんの羽、飛行機のはね、ゆーえふおー
のフシギ機能、紙飛行機、植物の種や花びら、魔法のほうきやじゅうたん...

考えていたら、あたまが飛行するものだらけの こうつうじゅうたい状態にっ

翼も美しすぎて捨てきれないのですが、バッサバッサぶんハウスに振動きたら こまるなあ

ということで、雲ながら上に乗れますモノを出してみ、みずからそれに座って試しています。

おお～たぶん上等な futon の表面が あるぱかさん みたいでふもっふもだわ～
雲さんに搭乗したイメージ感触、これだったなあ

しかも、しっばい魔法びとなワタにしておけっこう滞空時間があります。わぁおっ

おや、なにやらシャワーヘッドが 雲のおしりにくっついている？

ためしに持って撒くかっこうをしたら、元気な金平糖がくものこをちらすやうにしゃわわわっと
飛び出しました。

ヘンなモンつけるんじゃないっとしたされつつ、みんなで金平糖収穫収穫っ！



私たちがいま下宿している湖の底の洞窟をでて、今日は ほうき飛行の練習をしました。

いや～、はじめは安定が悪いし、高く飛ぶのにも天然ジェットコースター的でコワかったなあ～
あのころは、よくロケット式に飛ぶほうきにつかまって飛んでたカとっ...

もうそんなでなく、しっかり座って気持ちに余裕を持って飛べるやうになりました。
こまかいぐらつきもないし、ぶつかる前に方向転換だってできますだ！

まだときどき突風に吹き流されるけんどもっ

きょう吹き流されて湖に帰る途中でみたのは、くねくねした風変わりな家でした。

植物に見える表面をしたパイプ？が縦横無尽にうねっていて、
その先にハウスがぶら下がっています。

地下にもお部屋があるのかなっ

...と思ううちに、ふしぎな家も人も土に潜って消え、あとにはじわ〜んと おおきな夕焼けが残っていました。



ダイモさん達魔域のひとつは、自然発生的にうまれたり変化したりいなくなったりするさうです。

なので、決闘したりお話ししたりして気のあう相手を兄弟やおやごさんとして呼び合うらしき。

ダイモさんがやっと歩き始めた位の時
戦ってかれが負け、でも父ちゃん係になってくれたオカタがいたさうです。

父ちゃん（係）は、紫色の溶岩が怪獣の形を成したやうなお姿だったとか

一緒に歩いて巣のあるマグマだまりに帰る途中、溶岩怪獣さんの体が伸び始めました。

”ああ呼ばれてるなあ ぼんはウチに帰ってなさい この魔力なら数日で戻るからね...”

そして、紫の流星になって 空にすいこまれていきました。

魔域時間でダイモさんがみにっこ→げんきっこに進化するくらいの頃、だいぶ遅れて父ちゃん（係）が戻ってきました。

”おっそかったね どうしてたの？

最初のうちはワケがわからなかったけど、そのうち通りの店ほぼ全部顔なじみじゃんかうまいよなあ ななめ3メルトむこうの地層屋さんさあ”

溶岩怪獣さんは、ふへへと泣き笑いのやうな表情になり、子（係）の頭をなぜながらうとうとしはじめました。

そのあと魔域時間数日ぶんのうちに、怪獣さんはひとこともあったことを話さず、一粒の小石になってしまったというのです。

そこらじゅうの泡の星の人々が、魔法をいっぱい使って争い続けたひととき魔法使いの里にも、勇者様ご一行にinしたおひとの伝説が 残っています。

”だからナルメ、カオンもな。

魔法を使うときはきちんとだいに、魔法のモトに語りかけるんだぞ
魔域もココの構造もいろいろ あるからなあ...”

しみじみ なダイモさんのドライ&情熱のともも、なんだかちょっと見えた気がしました。

おやおや、珍しくカオン君が師匠の頭をふもふも なぜているなあ～



もし晴れてまほでしず仮ハウス住まい！になったら、ゲンマさんも来る？と聞いたら、

”ワガハイは上等な魔法部屋兼研究室ありますからに～んふふふっ
でも良い機会だし、発表会再開催には賛成なんだからっですよん”

とのことっ

うはあ～岩の下宿かあ～どんなお部屋にしようかなあ～

ダイモさんも一緒に旅で来ているから、お部屋を用意しなくちゃっ
...りんごのダンボール箱を4つ 2個2個で並べたくらいのさいずかな？

あぁっその前に何の魔法を披露するか決めなくちゃっ！



”ふしぎだなあ”は意外といつでもあるし、魔法をつかう者には大事なものだ

と、師匠はひとだんらくごとに おっしゃいます。

ワタがいまふしぎに思っていることは、マイほうきのことです。

ほうきは代々のもので、月桂樹でもエニシダでもなく、ハーブ畑の一角（昔天馬が落ちてきたという）に生えた奇妙な木の枝で作ったさうです。

この木、魔法が使えるやうになる程に、いなく天馬さん？の音が聞こえるといういわくつき。

とってもやんちゃで、あらうまみたいにうまく飛べなくて、新しいほうきほしいよーっとダダこねたことも...

でも、飛ぶうちに分かってきました。

里のあの木が生えてる景色、魔法を習い始めた みにルメ、傍に生えてた小さな花やすーっとする
香りのハーブ、夕方の森の家々の灯り

それに落ちてきたという天馬さん、もといたであろう雲の海の上、空を飛ぶ・初めての自分の家

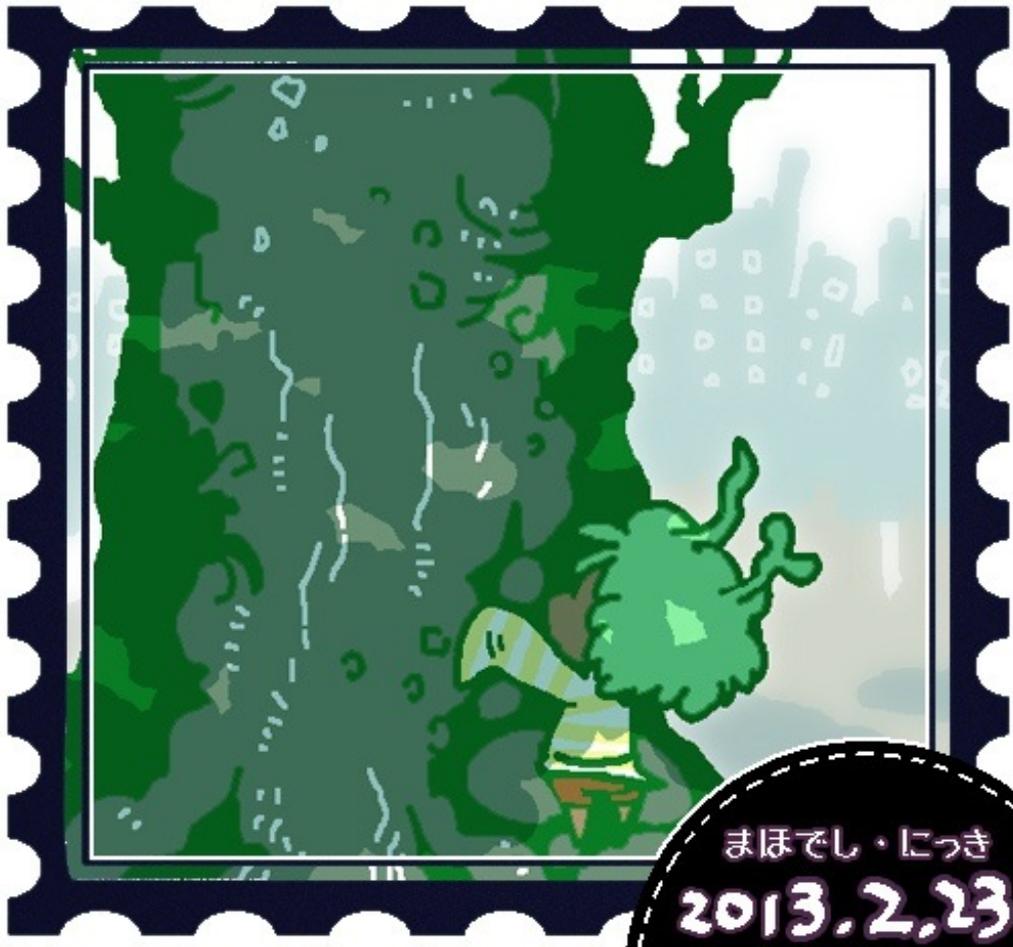
いろいろな人々が飛びながら思ったことの残りのかけらのひかりやかかげ

畑に撒いたおまめからにゅっと芽がでて伸びるやうに、きおくや思っているいてきたことの粒粒
たちが、まだまだ隙間だらけの魔法ごころの大地じゅうから芽吹き、みずみずしく あおあお
としていくのです。

よしよーし、いっぱいいっぱい のびるだよーっ

ワッ このほうきで出てきてよかったよーっ

でも、カスタムは度々したいナァ～



ゲンマさんは、半分以上密林に埋もれた遺跡で芽吹いたさうです。

すりばち状になった秘密の遺跡は、シダやガジュマルが緑の日陰をつくっていて

色んな言葉をかけてくれるお花の群生がわ〜っといらっさって、よいしょ よいしょと這い出てきたみにっこたちに いろいろ教えてくれたらしき。

たまに足に水吸わせなさいね、とか、お日様に照らされてよ〜くご飯をお腹で作って食べてね、とか

うんわかった〜 とか、は〜い とか、しってるもん とか、
いろいろ言いつつ、みにっこたちはころっころふわっふわ 遺跡を出て行きました。

でも、子ゲンマさんは大好きな木も水もあるし、植わったお花の歴代家族もいるから、ここから離れない〜とふんばっていたさうです。

じりじりする日差しに 大きな虎さんやおさるさん 鳥さんの声の響き渡る密林の遺跡
じゃっばじゃば降る雷雨に 永遠のやうな微笑を刻んである石のお顔

金色に燃える空のした きらっとした青空のした 雨上がりの壮大な雲の連なりの下
大好きなガジュマルの大樹に聞いた 昔話、こわい話、切ない話、笑い話、不思議な話

ワタシの魔法使いの里の思い出のやうに、ゲンマさんの中の忘れられないひととき なのかなっ

こんど、カオン君や師匠ずさんたちにも、いろいろな物語 ききたいなあ

そしてワタシも、素敵にものがたれる語り部であったりしたいなあ

よしまずは割り箸を口にくわえて、良い発音で早口言葉をいう訓練からねっ！

(ダイモさんから「家どした」とっ...それもたいそうだいじ、そしてこれもだいじっ)



きょうは、改めてのまほでし・魔法発表会です。

あわてない、おはなししながら、魔法やふしぎの流れを感知しつつ...

深呼吸をして、ほうきを構えました。魔法語をとなえつつ、ココでは

こぶし大の土のたま 草の子の根付く
こぶし大の草のたま 小さな椅子の乗る

こぶし大の野原のたま 風のうみのなか

たまのおのひとつぶ うかぶまなこのまえ

のやうな詩を、眼をつぶってなんども唱えます。

詩はそのときに作るもので、響きの光るものを普段から書き留めていました。

何度もとなえるのは、慌てば一すど防止のためと、ココに強く描き出すためです。

さわったり、ながめたり、まつわることを学んだり

そうして蓄積した記憶のかけらずつが、だんだんはっきりとその形を呼んできて...

ついに、1日以上保てる小さな浮島（椅子つき）が魔法でだせました！

さあカオンくん、2ばんてファイッ！



うまく変身するには、ココのなかの ローホ を納得させなくてははいけません。

ココには僕の分身たちもいろいろ住んでいて、下手をするとそれらがたべられてしまうので...

そして、じぶんすらローホに食い尽くされてしまうと、姿もたましいも怪物となり果ててしまう。

”こっちがびくびくしてると、ローホにも伝わっちゃう
見事な変身をしたいなら、それを思いっきり届けろ”

僕のかげらのいうとおり。

言語でなからうと動物にだってルールはあるし、それは枷にも羽にもなります。

ココのキケンを乗り越えてまで変身が出来るやうにならなくちゃなのは、

ひととして歩いて ひとの光と影をおもい

けものとして駆けて けものの光と影をわすれず

どちらものココを どちらにも伝えうるものたち

その族長に、次僕がならなくてははいけないからです。

肩幅くらいに足をして立ち、全身と せかいを呼応さすやうに、静かに呼吸を整え

じわじわ、じわじわ 変わる動物を まぶたの闇の空に思い描きます。

シャーマンのおばあちゃんが教えてくれた、僕のココの動物と、僕がつけたローホの本当の名を古い獣人語に変えてとなえつつ、呼びつつ...

うあっローホが立ち上がったっ

”伝え続けろ、カオン”

ううっ 大きな翼 この模様をみてる...

...いかんいかん、伝えなくちゃ

こっこれあげるから、力を貸してくださいーいっ！

骨型のおもちゃをぽんっと投げてローホがそれで遊ぶうちに、一気に変身が始まりました。

たったの半分、でも おおきな半分

立ち上がったあーうるふと、膝をがくがくさせている怖がりのにんげん（僕）

例により、ヘンな方法になってしまったけどっ

半分だけ、はじめてしっかりと魔獣に変わった世界がみえました。

あらゆるいきものもつ魂のほむらのしゃくねつの光 これ だったんだなあ...

ここから まだまだ だいぶ 歩かねばっ



そうか、今日27日だったのねっということで、
かいてきた魔法のつかいかたぽいんつメモ、読み返してみました。

だんだんどんどん、ぐわっしゃーってな筆記になっているなあ～

あ、こうするとなんとなく具合がいいんだね！とハッとするともう手で書くすぴーどよりも頭で
こうで、こうで、こうしてこうなって...と流れていくすぴーどが早くてっ

なんだかわからないコトバもあります。右手前!!って、右手を前？右の手前？

誤字をぬりつぶして虫の模様にしちゃっとるしッ

でも、ひとつひとつの赤文字や鉛筆文字が、ヘンな旅したり、魔法のとっくんしたり、へっぽこ
めいどさん時代には見ることもなかった、フシギな人々とであったり

の、ひとかけらずつ&それぞれ それなしでは語れないモノの塊になってきました。

小さな草葺の日用品雑貨屋さんの 天道虫のおばちゃん
めも帳やっぱり、いいお供になったよ〜っ

でも終わっちゃいさうだから、こんどまた買いにいこうかなっ
こんどは緑色のを、けしかすがガムになるマーブル模様の消しゴムも一緒につ

(1回面食らって買いそびれました)

さてはて、フォーチュンクッキーせんべいの紙、どこに貼ろうかなっ？





あっゲンマさんの絵がなかったけど、このオカタもちちゃんと再魔法発表会しました！

(植物と魔法使いならダレでもおしゃべりできる対話ぼーどを発明 互いが備えた魔力によって5段階に光ります)

あっちゃでおお〜っ... こっちゃでほっおお〜っ... と、発表会そっちのけっ

1. ルメさん



〈ルメさん〉

とし：■■■さい

じょぶ：へっぽこ魔術も使い→魔法使い見習い（「まほでし・につき」主人公）

じゅつ：ぬるい塩水えいっ（魔族の肩こりに意外と効く・魔瓶が割れる）

ろけっと飛行ほうき

りそう：自由につくれる魔法ハウスに住む、自在ういっちさん

とくぎ：いざとなったら猪突猛進 それまで蓄積まよまよ

すきなことば：空想して、ねこがいるわ、と思えばいいのよ。

そしたらもう、あんたにも、ほんとにねこがいるのよ。（ムシ・ミムラさん）

ごあいさつ：“めんぼう入れをひっくりかえしてしまい、床じゅうに散らばってしまった”

それをあじゃ〜...とまっしろく とほうにくれつつ思案していたのが今までで、やっと1本拾えたのが この間だったような気がしています。

でもわたしは丁度いま その中で、それも大事だな〜と思っています。

自由にうちが作れちゃう位になるまでの魔法をひとつひとつ覚えていくべく、シーラカンスさんのやうにフィット+お茶の時間もねっ

しかしこのへっぽこ魔法後特有のもしゃもしゃ髪、なんとかならんかなあ...

あと、おなかすいたなあ〜

とにかくにも、これからよろしくおねがいします！

2. ダイモさん



(ダイモさん)

- ・とし：けっこうベテランさんらしき
- ・じょぶ：ルメさんの魔法師匠&魔法経由役のやうなところあり（ルメさんの魔法塩はダイモさんの頭上から噴出 など）
- ・じゅつ：かえんゴォーツ、魔法ねっけつコーチ、魔族眼力 など
- ・りそう：ルメとカオンが魔法でやっていくにしても、ないにしても、自分に納得する部分を持ってどこにでも旅ができるやうになる（とうちゃんかっ）
- ・とくぎ：魔域なじみ各地にいろいろ、質の良い炭を作る、睡眠不要（ゆえに夜のたきびとうばんはダイモさん...）

・すきなことは：”痛みが、心の中のなにかを癒す。
そんなこともあるのだ。”（すいこでん？より）

（ごあいさつ）

ダイモだ。

ようやく封印された瓶から出られたと思ったら、よもや魔法の師匠になるとは...

つくづく生きる年月が世紀を2つ3つ越え始めると、思いもつかぬことがあるものだ。

（魔族ではまだまだ若い方）

ルメもカオンも何だか奇妙な者達だが、磨けばそれぞれ伸びる力を持っていると思う。

今はまだ低確率だが、ほんとうに魔法ハウスういち&変身マスターにもなり得るかもしれない。
。

...なんて、魔域で争いに明け暮れた挙句に封印までされて、ほとんど古傷にまで嫌気がさしていたのがウソのやうだ。

あの日、へっぼこお手伝いさんであったルメに瓶のフタの開封を頼んだ
その偶然と勇気を 他にあった可能性にゾツとしつつ たたえたい。

んだが、若干俺へっぼこずに使われちゃってないかっ？

あ〜...豆パン食ってたきびばん しとこっ...

3. カオンくん



〈カオンくん〉

- ・とし：不明（ひと式数えか、いぬ式数えかっ）
- ・じゅつ：あまり使っていないけど何かに変身、らしき

思いがけなくひとを柑橘類に変化させる

- ・りそう：強気で不言実行の孤高一匹狼
- ・とくぎ：めまい、はきけ、胃のもたつき（むしろ治したいんです...）
- ・すきなことば：養生の要は、自らあざむくことを戒めて、よく忍ぶにあり。（かいばら えきけんさん）

（ごあいさつ）

うっ、腹があいたたた...

あっどうもすみません、僕はカオンと申します。

突然ルメさんを文旦にしてしまうなんて、ああなんてことをっせめてグレープフルーツとか、つるっと表面のにできたら

...えあっそうですねそういうモンダイじゃないなあ...

僕の種族はうっかり変身してしまうのが仕様で、ずいぶん大変でした。ひととして暮らすのも、森の動物として暮らすのも

だから、僕は普段変身あとの方のココを引っ込め続けて過ごしています。

かれがフルで僕の表面に出て悪さしてしまったら森の皆に迷惑だし、

制御できるか心配だし、

実際、僕自身かれをよくわからなくて どうすればっというのもまた...

あ、でもすごく元気づけてくれたりするやさしいやつなんです！あいたっ
うう、腹痛おこさないで...

お詫びもかねて、ひとまず僕もルメさんとダイモさんの旅に着いて行きます。

いっぴき暮らしから急にひとが増えてしまい、うまくやっていけるか心配だけど...
僕のなんとか、どうにかと探求することも何処かで見つければいいナァ~

あ、皆さん 緊張やおなかいたにはご自愛と水のいらないアレをばっ...

これから、どうぞよろしくおねがいします。

4. ヒュドールさん



【ヒュドールさん】

- ・とし：ダイモさんよりちょっと年長さん
- ・じよぶ：??さんの魔法師匠+湖底のどうくつの幽居で隠遁ぐらし
- ・じゅつ：水や氷をめらんこりっくの蓄積により抜群にあやつる（ただし半ば無意識）
- ・りそう：清らかな水にかこまれた穏やかなくらし、まほでしの健やかな成長
- ・とくぎ：水族との会話、知識（※淡水）、天然水で極上の茶を淹れる（ゆえにおちゃ汲み係はヒュドールさん...）背が高いのではぐれない

・すきなことば：何をしてもきらわれる 何もしなくてもきらわれる でも生きていたい（に
／ちゃん／ねる さんから）

（ごあいさつ）

どうも、蛇ですよ。
大丈夫、噛まないし這わないから。

最近友に会ったら、とても小さくなっていた。
私たちももう、そういう刻がきているのだろうか...

あ、ちがう？あれは魔法で
まあ、それはどうでも良いのだが

水はいきものを癒し、満たし、しかし絶やしもする
しかし水じたいがきりかわっているのではなく、うけとる意味合いや役割が幅広く変化するという
こと

蛇もきっと、そうなのです。

だから、我が同胞を道でごらんになったら、そそくさとその場を去っていただきたい。

さすれば彼らは進化の賜物である腹なる足にて、そうっと静謐なる罅へ帰るだらうから

卵をとりまいて守る親蛇のころ、少しでも知っていただけたらさいわいですな。

脱線したが、今度 その小さくなった旧友の弟子と我が弟子を鍛えんがため 競わせるらしい。

まことダイモのやり方らしい...

植物の研究のため洞を訪れ、魔法探求は最近の我が弟子だが、まああの不思議な髪型のむすめと
大根のやうないぬに負けることはないだろう

果てはわからぬもの だがな.....（溜息）

ではみなさん、ごきげんよう。

5. ゲンマさん



【ゲンマさん】

- ・とし：あたまの植物よりは長い
- ・じょぶ：植物学者のとちゅう&最近、水と氷の蛇巨人・ヒュドールさんのまほでしも
- ・じゅつ：頭部に根付く花（右ーアリーさん／左ーウームさん）での物質吸収／植物化、手から自在に薬草を出し入れ
- ・りそう：植物人の謎を解き明かす、ヒュドール師匠の蛇先生がたにおこられないようになる
- ・とくぎ：植物属の知識、会話、すつとこマイペース
- ・すきな言葉：夢はでっかく根は深く（みつをさん）

（ごあいさつ）

いや〜どうも、ワガハイ ゲンマと申します。

皆さん気になっとなるかどうかはアレなのですが、ワガ頭にお花咲いてますでしょうか？
これ段々成長して、からだの部分は皆いずれ根になっちゃうんだからっなんです。

一族は巨大なお庭でもってそれはまあ夢のやうに咲き誇っております。

もちろん話せるので、さびしかぁないんですが...

お世話になっていた古木さんが、旧年かな、枯れてしまっって。

こけが可愛くよじのぼって、細いきのこが群れて、どっしりとされてたのにねえ

どうも土やら水やら温度が変わっちゃったらしくって

あんなに立派なお方が、いつまでだって根付いてらっしゃいそうなオカタが枯れてしまったもんだから、きゅうに土に潜るのが怖くなってしまったのですなァ。

そういったっていずれ根ははらないといけんのだし、せめて仕組みを勉強してから根張ろうと思

って見よう見まねで研究をはじめたら、これが深い深い！

なまじ頭に花咲かせてると、もう知ってるよとなっていて、そのアタマバナがどういう種類でどういうしくみで生きてるかなんて調べないものねえですからに。

それに魔法、これを蛇先生がたに教わるのもなんだかワクワクしてしまっ

まさかワガハイにそんなチカラがそなわろうとは！ですじゃ。

また先生がたったら、ワガハイにあった魔法の系統を見出させてくれたのだなあ

ヘンゆかいなまほでしのお知り合いもできたことだし、ワガハイお兄さん風ふかしながらもうちょい地面のうえでわっしょいしときますわ！

ほいだらね〜っ



山と湖のある小さな町
自転車でひとまわり できてしまうほどの

そこにその人はうまれたが
そこはもう いまは曠野

世界じゅうがなににともなく ごうごうとあちこちでほえわたったとき
その人のなかの なにかがこわれた

そしてそのひびわれから、かれは謎めくよたびに さまよいだした

ころろにあった はくちょうのいこうみずうみ うかぶ緑の浮島 きらきらのみなも
赤い屋根に白壁の よせあうやうに いとしげにたたずんでいた家並み しゃれた看板 石畳

いまもみえるが そのままのかたちでなく
むげんにひろがるやうな 霧ぐむ廃屋の町のかたまりのなかか そとか

背の空洞の暗闇に ひとつランプをやどしたのが ひびわれからみえる身なりのよい男が
子守唄をうたいながら いまもまだ あやしげな闇に まぼろしの石を積んでいる

ライデル・ロダム そのひと

3000世界で最大の 迷宮作りの魔法使い



ひとつだけ 柄のないたまごから

ひとりだけ 同じ色をもたず うまれた

からだはつよくは なかったが

もりをはい むしをたべ 密林の樹上に 紺色天幕の宝石の川の下に ねむった

そして なんびやくねんか のち

白い蜥蜴人は 唸る風の吹く谷で 途方にくれていた

うつろな古代の瞳にうつる 天空の獅子 崩れる構造物 繰り返すやうで常に新たな花々

鳥に似た細い指を 地につき やせたからだを支え 知の蜥蜴の 歩のはじまり

なんびゃくなんぜんの なんまんの 現象・事物・いきものが ところに記述されている

けれども 一つ書く内にそれは去り、形を変え、新たなものとして立ち現れ 決してとらわれな
い

それでも、蜥蜴人は記述をやめず 謎と発見のきわを彷徨う

みずからの意味の答えが 千変万化の世界のなかに ようやく解き明かされる日を渴望しながら

アムソール・ドゥニヤー その人

ココ世界の事象を 混沌のほの灯りのやうに記銘する 永遠の大博士

記銘すなわち 光学図書館 蔵書群なり



光ほのさす森の奥に 現れ 消えるという小さな館が
つづく争いからのがれ 白眼の階段から逃れ

あやしの森の者となった貴婦人

なんともつかぬ鳴き声の 風変わりにいきものたちが
視界を覆い尽くすほどのみどりが ゆくものをはばみ 姿をくらます

苔のカーテンをくぐり、鎧の若者が森を大げさに行く

伝説の真相 おれがしかと見てきてやる
そうしたらお前達、おれにごちそう おごるんだからな
魔女の秘薬を 土産にするさ

大柄で、豪胆で、見栄っ張りで、そのくせさびしがりや

そして ちょっとばかり無謀で粗野な きもだめし

館は謎めきながら微笑むやうに おぼろげに緑のなか
扉に手をかけると、左右から猟犬ほどの赤蟻がにじり寄る

ここは蟻塚かよ、と剣をはらって鞘の中
いつしかざわめく声のする すすけてみえぬ硝子のはまった戸を開ける

鍵はあったが 扉はあいた
横にするどい牙の並ぶ扉に 若者は気づかない

中にいたのは、ため息の出るほど見ほれる 異国の女性

茸や羊歯に覆われた素敵な廃屋でお茶会のさなか

も、申し訳ない、扉が...

そのあとに 言葉はない

お茶会の客の顔は

ドレスの蟻 紳士の蟻 リボンタイの子供の蟻 帽子の似合う妙齡の蟻 金飾りのブローチの恰
幅の良い蟻...

ふふふ という 花の咲くやうな かすかな微笑みとともに
あった館は すでに姿を けしている

茶会の部屋に、そわそわした鎧の赤蟻が 一匹

そして真っ白く ばらついて転がるかけらが 小さな蟻の列に 運ばれていく

セレまたはセレナルデ その人

ちいさきものたちと心かよわす あやしの森の蟻婦人

まほでし・につき ①

<http://p.booklog.jp/book/67385>

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/67385>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/67385>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ